

4月号

第327号

いっしん

平成24年(2012年)

家老とぞ
教へ給ひし
妻の身の
かくれし力
神は愛づらむ
甘木親教会
初代親先生み教

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市加治木町朝日町130 発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp ホームページ <http://www.7a.biglobe.ne.jp/~konkokajiki>



ヤマザクラ満開 (春分の日)



春季霊祭 霊祭詞奏上

加治木教会奥津城

春季霊祭

仕えられる

今年はお彼岸(春分の日)に合わせたように、野に山にヤマザクラが開き始めました。

三月二十日(祝)「春分の日」に、加治木教会では、春季霊祭が仕えられました。

春季霊祭は、加治木教会の霊舎にお祀りされておられる、お道開きにご生涯をおささげになられた、甘木親教会初代・二代親先生、加治木教会の前教会長矢野政美親先生、ご母堂矢野クラ様、戦前にご布教されておられました平島只助先生方をはじめとして、教徒(金光教でご先祖をお祀りされておられる家)の霊様方、信徒(神道や仏教でご先祖様をお祀りされておられる家)の霊様方のご功績を称え偲び、お礼とお慰めを申し上げるご祭典で、真心を尽くしてお伝えさせていただきました。

(ご霊前での祭詞(のりと)では、これまでにお届けのあった数百柱のご霊神様のお名前をお読み上げて、

お呼び出し
申し上げる
というご祭
典儀式が仕
えられたあ
と、参拝者
全員が、教
徒の方から
順に玉串を
奉奠させて
いただきました。



玉串の奉奠については、常緑樹の
榊の葉は常に変わらない真心を表し、
さらにその上に真っ白い真心を表す
垂紙(しで)を載せてお供えし、真
心を込めたものをお供えさせていた
だくという意味の儀式です。

ご祭典後の教話では、九州開道の
祖と仰がれる小倉教会初代 桂松平
(まつへい)先生
のみ教えで
「霊祭は家族
そろって仕
えることを
霊様はお喜
びになられ



る」というお
話でした。

そのお話は、
明治四十三年
十二月、桂松
平先生がご本
部大教会所ご
建築のための
ご用材伐採・



搬出のために木曾山中に赴いておら
れたときに、大病を患われ重態に陥
られた最中に、奥様ミツ先生がお連
れになっておられた三男の光行様
(当時五才)がジフテリアにかかられ
急逝され、三代金光様から「桂 躬代
(みがわり)光行若子之霊神」とのおく
り名を頂かれ、木綿崎山(現祭場の裏)
の奥津城にお祀りされました。

その三年後、金光四神様(二代金光
様)の二十年祭がご本部で仕えられ
たとき、光行様の三年祭をご本部の
職員の方二人に頼まれて、木綿
崎山の奥津城の前でお仕えになられ
ました。

しかし、四神様のご祭事が忙しく
桂松平先生ご夫妻が奥津城に上って

行かれたときには霊祭は終わり祭員
の先生方もご参拝の方々も山を下っ
てありました。

霊祭に遅れて桂松平先生ご夫妻が
奥津城に顔ずかれますと、光行様が
装束姿で出てこられて「お父さん、
立派なお祭りをして下されて有難か
ったが、光ちゃん淋しかった。
たくさんお参りであつたが、皆知
らぬおじさんやおばさんばかりであ
つた」としよんぼりとした様子で申
されましたので桂松平先生は「光行
よ、お父さんもお母さんも御用があ
つてお祭りに間に合わなかつた、許
してくれい、小倉に帰りしだいお前
の知った人たちを皆集めて、改めて



霊祭をさせ
てもらつそ
よ」と諭され
ると嬉しそ
うに消えて
行かれ、この
ことがあつ
て以来、ご先
祖の霊祭に
は内輪の者
が打ち揃つ

て、真心を込めて霊祭を仕えることに心がけるようになられたそうです。霊祭というお祭りは、霊様がお喜びになられご安心なされるよう、祭詞を家族皆で打ち揃って聞かせていただき、霊様にお礼を申し上げお慰び申し上げ、とくに改まった心でお祭りを仕えさせていただくよう心がけさせていただきましょう。

霊様に

真のご安心を

していただくには

(春季霊祭のお話しより)

「真の信心」をして、ご先祖様も救われ、子孫も助かり、家が繁盛するおかげを蒙らせていただかねばなりません。

故矢野政美親先生のお里の矢野家は、矢野クラ様のご信心で家が持ち直して以来繁盛が続き、今はずいぶん立



現在の矢野家

派な家が建ち、お正月には、矢野ク



矢野クラ刀自
(昭和9年 53才)

ラ様方の子孫であります親子類が仲睦まじく寄り合うお節

(せち)の集まりなども持たれます。しかし、今から百年ほども前、信心の道にご縁を頂いておられなかつた頃といえますと、故政美親先生のお祖母様は最初に嫁がれた家のご主人が若死にされ、家は倒産し仁吉郎様はじめ三人のお子様を伴って実家へ帰られた後、縁があつてお子様三人を連れて矢野家へ嫁いで来られました。

ということは、入信前の矢野家の家族には、大きな病気災難続きで、大変な不幸が打ち続いていたので、その家が、甘木教会初代安武松太郎親先生がご布教されました明治三十八年に入信し、ご信心を始め、病氣や災難、種々なことの上におかげを蒙られました。

しかし、さらに大きな病気・災難

に出遭われます。その意味することは「真のおかげ」いわば子孫繁盛家繁盛のおかげを蒙ることのできる「真の信心」ではなかつたということです。

「真のおかげ」を蒙ることができるようになられたのは、クラ様入信十年目のご大患の折、安武初代親先生からの「自分は死んでも、生まれる力もない生きる力もない者が、三十三年間生かされ恵まれて、…その天地の親神様のご恩には、どのよういして報いるつもりか」とのお言葉で天地の大恩に対する心の眼が開き、報いて行く信心、すなわち親神様を知り、親神様にご安心いただきお喜びいただく信心があることを教えられ気づかされてから、その後です。

それまでは、わが身わが家の助かりばかり願う「自己中心の信心」であつたのが、これより親神様にご安心いただきお喜びいただく「親神様の御立場に立った信心」に変わってしまわれました。

言いかえますと、「親神様を道具に使う」(自分の願いをかなえてもらうためだけの信心)から、「親神様にご安心いただきお喜びいただく信心」

（自分のためではない親の恩を知って真心を尽くす親孝行信心）に変わって行かれました。

また、親神様の、お気付けや、一見おかげが受けられなかったということの中にも、深いところにある親神様の、前途や将来を思い召されるがためのご慈悲・ご愛情・お働き・お計らいに対し、心の眼が開き、「おかげを信ずる信心」から「親神様（ご神慮）を信ずる信心」に変わって行かれたのです。それも、難儀・苦勞を、ご信心の肥やしとして修行に真剣に取り組まれた結果です。

そのような、何年もの修行を通して、親神様に対して身勝手に強引におかげを願うのではなく、親神様のご安心されお喜びになられて、「親神の心をほんとうに知る、恵みがいのある与えがいのある氏子じゃ」と思し召されて、親神様の方から先から先へとお計らい下されて子孫繁盛家繁盛のおかげを蒙ることのできるご信心へと進まれたのです。

そうして、百年以上、豊かで仲睦まじい家族・親族の間柄で、財産も人も続く「信心の家」「徳の家」と言え

る、矢野家となって来られたのです。百年前、不幸が打ち続く家であったのが「信心の家」「徳の家」と変わってしまっ



ておられる今日、靈様方はどんなにご安心されお喜びになられてあるでしょうか。

ほんとうに、靈様に對し、ご安心いただきお喜びいただいております。甘木親教会初代 安武松太郎親先生が矢野クラ様に伝えられた「親神様の御立場に立った信心」「親神様にご安心いただきお喜びいただく信心」「おかげだけを信ずる信心」から、親神様（ご神慮）を信ずる信心に進ませていただくことです。

それが「真の信心」「親孝行の信心」で、親先祖が喜ばれ安心される信心であります。

典楽講習会

開かれる

三月二十四日(日)・二十五日(日)の両日、鹿児島教会において「金光教典楽会・南九州支部講習会」が開かれました。



このたびは加治木教会から、初心者の方が参加をさせていただきました。箏(こと)に高校生二名と、竜笛に大人二名が参加させていただきました。

指導には、金光教典楽会南九州支部の方々が当たられました。大分県日田教会・耶馬溪教会・青山教会の、先生をはじめご信者さん方八名の有志が、旅費自費負担にて一泊二日でおいでくださいました。

南九州支部長の赤尾武男(日田教会在籍信徒)さんは、開会式で、昨年の典楽講習会前日に起こった東日本大震災で被災された娘さん(石巻教会夫人)が「津波の影響で二日間、家族が教会と学校と幼稚園の三箇所でも身動きが取れなくなり、まったく連絡が取れませんでした。二日後全員の無事が確認されることとなりました」とお話しされました。

また、「私自身が一ヶ月前に脳梗塞で口がまめ



典楽会南九州支部長
赤尾武男さん

らず言葉が出なくなり、口の微妙な動きが必要。な筆策(ひちりき)の演奏や指導の御用が、気がかりでしたが、すっかり快復のおかげで蒙らせていただき今回もこうして、差し障りなく御用にお使いいただくことができました」とお話しされました。



今回、加治木教会からは、新高校一年生になる、矢野芳恵さんと萬代沙也香さんが、箏(こと)の演奏に初めて挑戦しました。さわるのも初めてでしたが、二人ともプラスバンド演奏の経験があり指導の先生も「飲み込みが早いですね」と褒めてくださいました。これからの上達が期待されます。

また、竜笛を練習している上田和

也さんも年々上達してきており、講習会で個別指導をしていただくことで、悪いクセを直してもらい、楽譜の読み方や微妙な音の出し方を教えてもらうなど、丁寧な指導を仰ぐことができました。



東日本大震災支援金 報告

東日本大震災が発生して以来、加治木教会でも復興支援活動を呼びかけてまいりました。

その結果、連合会で各教会に設置してあります「災害支援金箱」を通し、御本部の「災害救援社会活動資金」や石巻教会への見舞金に協力させていただきますました。

加治木教会「災害支援金箱」支援金

平成二十三年 三月 十七日

一〇四九〇円

平成二十三年 七月 十四日

三〇一六六円

平成二十四年 二月 三日

二二六七七円

以上、入っており
ましたので、送金さ
せていただいてお
ります。

皆様のご協力あ
りがとうございま
した。



東日本大震災復興支援団による 支援物資配給の様子



2012.8/5

中高校生派遣団

↑ 矢野芳恵さん

中高校生派遣団



側溝のへドロ出し
作業に取り組む
金光教の若者たち

復興支援活動、
くわしくはネット
で「金光教少年少女会
震災復興支援ブログ」
を「らんく」ください。

金光教少年少女会連合本部が、今も募集しています。「東日本大震災復興支援団」は、昨年の夏休みに、中高校生派遣団を募集しました。加治木教会から矢野芳恵さん(中三)が参加しました。石巻市で、津波で流れ着いたガレキの撤去作業などをしてきました。

そのような、全国から応募される、支援団員を少年少女会連合本部は、ご霊地から石巻まで、平成二十三年度は三十四回派遣しており、その費用の一部は、御本部の「災害救援社会活動資金」から出費されました。

三月十一日(日)には、十三時から、御本部広前祭場において、「東日本大震災 慰霊復興霊地祈願祭」が仕えられました。
全国各地から二五〇〇人が参拝され亡くなられた方々の慰霊と被災地の復興が祈願されました。

訃報

本中野重則さん(八十六才)が、三月十二日お国替えになられました。長年にわたり信徒総代の御用をおかけ蒙られました。霊の安心とお道立てをお祈り申し上げます。三月十四日、告別式(仏式)が仕えられました。



加治木教会からは参拝していませんが、加治木教会のお広前でも、この時刻にあわせて遙拝の御祈念を仕えさせていただきます。



あしあと

加治木教会行事記録

3月

- 1(木) 月例祭(報徳) 10時半
- 3(土) 甘木親教会月参拝
- 9(金) 斎掃御用 10時
- 10(土) 月例祭(大徳) 10時半
- 20(祝) 春季霊祭 10時半
- 21(水) 斎掃御用 10時
- 22(木) 月例祭 共励会 13時半
- 24(土) 典業講習会(於鹿兒島教会)
- 25(日) 吉屋家霊祭(宅祭)
- 26(月) 28(水) 甘木親教会 少年少女会「交歓会」
- 28(水) 30(金) 甘木親教会「教会子弟の集い」
- 31(土) 斎掃御用 10時

ご霊神様のおまじ

四月

平島厳廼正明 聡根彦之霊神

(↑日)昭和19年

前田重吉之霊神(4日)大正5年

福元 節之霊神(2日)昭和59年

中野 勇之霊神(3日)平成11年

前田シナ之霊神(4日)昭和20年

小坂力ネチヨ之霊神(5日)

前田ソエ之霊神(6日)昭和39年

松田浅右衛門之霊神(8日)昭和28年

安武孝子玉依姫之霊神

(9日)昭和50年

汰木美之助之霊神(11日)昭和24年

瀬尾雅博之霊神(12日)平成3年

市蘭千賀子之霊神(19日)平成13年

中島武彦之霊神(26日)昭和51年

三反 礫之霊神(29日)昭和48年

「先祖のご霊神様の、現世・幽冥かくりよでの働きあつての今日の私たちであります。立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。」

四月七日(土)～八日(日)
御本部

天地金乃神御大祭 参拝

出 発：七日午前八時
帰 着：八日午後十一時半頃
交通機関：レンタカー
お願いを申し上げます。

四月二十五日(水)参拝 第一日二十五日 第二日二十六日

甘木親教会 (祭典 十一時よ)

天地金乃神御大祭 参拝

出 発：二十五日午前七時半 帰 着：同日午後七時頃

四月二十九日(祝) 十一時

加治木教会 (前日 御用奉仕)

天地金乃神御大祭 奉仕

《御大祭》

四月二十五日(水) 甘木親教会

五月五日(祝) 西鹿児島教会

五月六日(日) 多良木教会

五月十三日(日) 大口教会・上荒田教会

五月二十日(日) 鹿児島教会

五月二十七日(日) 泉田教会二十五周年記念祭

教会行事

4月

1(日) 月例祭(報徳) 10時半

// 併せて 勸学祭(少年少女会)

3(火) (甘木親教会月参拝日) 参拝は未定

7(土) 御本部参拝 出発

8(日) 御本部天地金乃神大祭

9(月) 斎掃御用 10時

10(火) 月例祭(生神金光 天神様) 10時半

12(木) (連) 執行部会 10時半 (上荒田教会)

14(土) 15(日)

甘木親教会 青年の集い

21(土) 斎掃御用 10時

22(日) 月例祭・共励会 13時半

25(水) 甘木親教会 御大祭 第 日

26(木) 甘木親教会 御大祭 第 日

28(土) 御用奉仕

29(日) 加治木教会 御大祭

30(月) 斎掃御用

日程未定行事

若婦人会 青年会

少年少女会 青年会 若婦人会は、都合により日程を変更することがあります。随時連絡しますのでお気を付け下さい。

5月

1(火) 月例祭(報徳) 10時半

5(祝) 西鹿児島教会御大祭 12時

// 斎掃御用 10時

10(木) 月例祭(生神金光 天神様) 10時半

13(日) 上荒田教会御大祭 11時

17(木) (連) 布教協議会(加治木教会)

20(日) 鹿児島教会御大祭 11時

21(月) 斎掃御用 10時

22(火) 月例祭・共励会 13時半

27(日) 泉田教会25周年記念大祭

31(木) 斎掃御用 10時

多良木教会御大祭 11時

四月十四日(土)～十五日(日)

甘木親教会 集合 十四日 十七時 解散 十五日 十三時半

青年のつどい

出 発：十四日十五時頃 帰 着：十五日十五時頃